

# OISA NEWS

OITA  
INFORMATION  
SERVICE INDUSTRY  
ASSOCIATION

2013. 4

59

発行：大分県情報サービス産業協会  
会長 森 秀文  
<http://www.oisa.jp>  
編集：広報委員会  
事務局：大分市城崎町2-6-31  
(大銀コンピュータサービス協内)  
TEL (097) 537-5918  
FAX (097) 534-4545  
印刷：佐伯印刷株式会社

大分県情報サービス産業協会



安岐ダム公園 (国東市)

## CONTENTS

平成24年度 新年例会	2
新年ご挨拶	3
平成24年度 特別講演会	4
平成24年度「技術研究会」発表会開催	6
社会貢献活動 (別府大分毎日マラソン)	7
平成24年度 第2回視察研修旅行	8
フレッシュさん紹介	8

# 平成24年度 大分県情報サービス産業協会 新年例会開催



森 秀文 会長



荒城理事乾杯

平成24年度の新年例会が、1月23日（水）に大分市のトキハ会館にて、ご来賓並びに会員企業の皆様多数ご出席の中、盛大に開催されました。

まず、最初に森会長より新年のご挨拶がありました。

ご来賓の方々と関係機関及び団体への平素のお礼に続き、昨年発生した、九州北部豪雨の被災者へのお見舞いと、一刻も早い復旧を願うとのこととお話と、新政権の成長戦略に伴う景況感に続き次のような内容のお話がありました。

まず、県内の明るいニュースとして、大分トリニータのJ1昇格、NHK大河ドラマが豊前中津市の黒田官兵衛に決定、さらに大分駅周辺の再開発について、また当協会会員のモバイルクリエイイトさんの東証マザーズ並びに福証Q-Board上場のご紹介と続きました。

その後、2013年度予算の概算要求について、経済産業省及び総務省の内容に触れられ、これらを注視しつつ関係関連団体との連携の必要性について訴えられました。最後に、協会の課題と各委員会の行事についてのご紹介で締めくくられました。

引き続き、大分市長 釘宮磐様、大分県商工労働部長 山本和徳様、九州経済産業局地域経済情報政策課長 篠原修一様のご挨拶を頂戴し、特別講演会へと移りました。本年は、穂高ゆう様から「宝塚歌劇団での経験から学んだこと」という演題でご講演をいただきました。

その後会場を移し、荒城理事の乾杯のご発声と共に新年祝賀会が開催されました。大変和やかな歓談を経て、盛大に終了いたしました。



小野理事挨拶



懇親会風景

## 新年ご挨拶



大分市市長

釘宮 磐 様

皆さんこんにちは。本日ここに大分県情報サービス産業協会の新年例会が、会の皆さんの多数のご出席の中でこのように盛大に開催されますことを、まず心からお喜びを申し上げたいと思います。また皆さん方には平素より自治体の市民サービスまた住民サービスに向けて様々なシステムを私共に提供し、私共の市民サービス行政サービスを高めていただいておりますことに改めて心から感謝を申し上げたいと思います。

直接住民と接しています私共基礎自治体といわれる市町村は、さまざまな意味で多様化する市民住民サービスに的確にまた迅速に答えることが求められております。そういう意味ではICT技術というものが年々、また日進月歩で進んでいることは大変心強い限りでございます。

さて大分市でございますけれども、昭和38年に新市政が誕生して今年3月で50年となります。大分市や鶴崎市、さらには大南町、大分町、坂ノ市、大在といった6市町村が合併をいたしました22万の都市になりました。

ご紹介いただきました大分県商工労働部長の山本でございます。新年互礼会ということで改めましてあけましておめでとうございます。

今年には新年早々に経済対策という事で発表がございました。また経済がいろいろ動いていく、動かしていくということになっております。こういった中でOISAの会員企業の皆様にも、こういう物が動く機会にしっかりとビジネスのチャンスを掴んでいただいご活躍いただく、まさにそういう時期が来ているのではないかと考えております。会長が先ほどおっしゃられましたように、昨年は北部九州の豪雨がございました。そういった災害の対策これに加えて防災、たぶんわれわれが来たるべきものとして備えなければならない津波も含めた、こういったものへのITの活用、いかに安全安心に財産また何より生命を守っていくかという所に、また一段の工夫とチャンスがあるのではないかと。と思います。



九州経済産業局地域経済情報政策課長

篠原 修一 様

ご紹介をいただきました九州経済産業局の篠原でございます。

平成25年の新春を迎え謹んでお喜びを申し上げますとともに、本日の新年例会が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。大分県情報サービス産業協会に置かれましては平成元年の設立以来、地域の情報化や情報サービス産業の振興発展に貢献して来られ、九州の中でも先頭集団を走られている大分県情報化の進展に向けたご尽力に対して改めて敬意を表するところでございます。

さて、先ほども話に出ておりましたが、わが国経済の状況としましては従来から抱えておりました財政危機、長引くデフレ等の内なる構造的な課題に加えまして、東日本大震災に伴う原子力事故、円高、欧州危機等の外的要因、そういったものが重なり、(我々は円高等による根こそぎ空洞化と申しておりますが) エネルギー制約、それに伴う所の企業競争力の低下、雇用環境の悪化など、かつてない危機に直面している、と

また一昨年は大分市誕生から100年を迎えたわけですが、いずれも節目の年にあるわけでありまして、この時期に県都の顔づくりというものがあるわけでありまして、この時期に県都の顔づくりというものが今着々と進んでいます。駅ビルに東急ハンズが中核店舗として入るといことが決まったようです。こういう状況を作っていくことで、さらなる大分の魅力を増していかなければなりません。合わせて中心市街地にはこの集客力の強い施設「ホルトホール大分」もこの7月にできます。こうした物をぜひ生かして新たにこの中心商店街に人を呼び込む為の様々な手段を考えていかなければなりません。そういう意味では中央通りという残された空間を特に駅の南側は、ほとんど車に気を取られなくてもゆっくりと回遊できる空間でありますので、この空間から中央通りを通して新たな県立美術館までの間、この間を出来るだけ歩いて楽しい空間にしていくという社会実験を今年には行おうと考えております。車線を、歩く人に少し返してもらって、そしてこの空間を使って一体感を南北で作っていく、こういう壮大な計画であります。今、県庁所在地で、人が優先されるような街づくりというものはなかなかできるものではありません。この50年、100年という一つの大きな節目の時であればこそ、このチャンスを生かして全国から注目されるような、そんな街づくりを進めてまいりたいと考えております。

どうか皆さんよろしくお願いを申し上げます。

またスマートフォンが大変普及しておりますけれども、その通信の容量を確保していくような観点でのさまざまな基盤整備というの、今年一段と進んでくるわけでありまして。そうしますと先ほど釘宮市長のお話にありまように、その上のつかっていくコンテンツをいかに魅力のあるものとして発信していくかで、この土俵が広がっていくわけでありまして、こういった所もまた大分県から面白い取り組みがOISAの後押しで出てくると面白いと思っております。何よりそういった事が必要になりますのは県内の中小企業の皆さんが様々なビジネスのチャンスを掴み、また、物やサービスを売っていくときの情報発信のツールとして、大変大事なものであります。またIT武装というのは活用がすぐに出来るものですので、OISA会員企業の皆様からいい提案を大分県内の皆さんにいただくと大変幸いに存じます。

大分県としては、OISA会員企業の皆様にご協力いただいて、IT人材塾というものを今年始めさせていただきました。中小企業の競争力、特にITの世界では人材が重要でありますので、企業の枠を超えた交流の中で非常にいい手ごたえをいただいております。これは25年度も是非継続して実施していきたいと思っております。会員の皆様には興味をもって、積極的にご参加いただければ幸いです。

いうふうにご捉えております。このような厳しい経済環境のなか、先般閣議決定しました「日本経済再生に向けた緊急経済対策」は、日本経済の再生に向けて「復興・防災対策」「成長による富の創出」「暮しの安心・地域活性化」の三分野を重点として、予算についても、いわゆる「15ヶ月予算」の考え方で切れ目のない経済対策を実行していくという事としております。

さてご承知の通りITが、産業のみならず私たちの生活に深く浸透してきている中で、情報サービス産業を取り巻く環境は先ほど来お話に出ておりますビックデータ、クラウドコンピューティング、ソーシャルネットサービス等のキーワードに見られるように、いまや世界規模での市場形成、あるいは企業間競争が激化している状況下にあります。

貴協会におかれましては、持ち前の行動力結束力を持ってITの力をいかに発揮され安心安全な生活、企業の生産性向上の実現に向け、大分県はもとより九州の情報サービス産業の発展を牽引していただけることを期待しております。九州経済産業局といたしましても、IT関係の予算は非常に厳しい中ですが、ITを活用した様々な産業分野との融合、あるいは情報セキュリティ対策等の推進などを通じ、九州経済がより力強いものとなるように、皆様と一緒に力を合わせて取り組んでまいりたいと考えております。

## 平成24年度 特別講演会

演 題：「宝塚歌劇団での経験から学んだこと」  
 日 時：平成25年1月23日（水）16:00～17:30  
 場 所：トキハ会館 5階 ローズの間  
 講 師：穂高 ゆう 様



皆様初めまして。  
 穂高ゆうと申します。  
 私は宝塚歌劇団の出身  
 です。

宝塚は再来年で100  
 周年を迎えます。最近  
 よく思うのは「清く正  
 しく美しく」のモッ  
 トーを先輩方から受け

継いで100年続いているということです。

舞台人になってから思ったのは、「自分で考えて行動することが出来ない」ということです。宝塚の見どころの一つは早変わりです。舞台に出て引込んだらものの30秒で別の衣装に着替えて、また舞台に出ます。担当がいて手伝ってくれるわけではなく全部自分達でやらなければいけないので、計算しなければなりません。お化粧品も自分の顔にあった化粧を研究して年々上手になっていきます。そして髪型も年々上手になっていく、というように自分で研究したことが、プロとして学んだことと言えます。この基礎を宝塚養成学校の1年目でたたき込まれます。

宝塚養成学校の1年目を予科生、2年目を本科生と言いますが、この1年目が、本当に厳しかったんですけど、それがなかったら劇団に行ってから続かない世界なので、1年目の経験がすごく大事だったと思います。

まず、目上の人を敬うことを叩き込まれ挨拶から始まります。上級生を見かけたら、自分が率先して挨拶をする。それは学校内の2年生も同様ですが、学校以外の場所でも、宝塚の歌劇団の先輩方が町中を歩いたりするので、とにかく見つけたら自分が先に頭を下げてお辞儀をします。挨拶から叩き込まれて、「おはようございます。」「お疲れ様でした。」「すみませんでした。」「申し訳ございません。」この4つは1年間でどれだけ発したかわからないくらい挨拶は徹底して教え込まれました。

1年目は、「なんで？」と思うような規則が山のようにあるんですけど、その時はとにかくそれを守らないと上級生に叱られる。叱られたくないから、言われたことを間違いないようにこなすことしか考えていませんでした。

予科生の仕事の一つでお掃除も目を合わせてはいけなくて、話してはいけない、色んな雁字搦(がんじがら)めの規則の中で、分刻みに決まっているんです。上から厳しくされてすごく良かったことは、同期同士の仲間意識が生まれるというのか、常に言われていたのが1人の失敗は同期全員の失敗だから、誰かが出来なかったからって見捨てては

ダメ。必ずその人が出来るようになるまで同期全員で助け合うように言われていました。40人全員で励まし合い助け合いながら、1年間を乗り越えることが出来たんですね。今でも同期は特別な存在で、家族以上と言っても過言じゃなくくらい強い絆で結ばれています。歌劇団に入ったら、それこそ女の世界で、美の世界で、人気の世界で、という結構過酷な状況下なんです。やはりライバルなので競争しながら切磋琢磨しなければならない為、1年生時の厳しい上下関係や挨拶や規律等により基礎体力が付きました。その基礎体力作りがなかったら辛いことだらけですすぐ諦めたり、すぐ辞めちゃったりする人が多いと思うんですけど、それが無いのがやっぱりこの1年目の過酷な経験だと改めて思います。この厳しい世界でも頑張らなければという思いと、もう1つは「初舞台を目標」にしているので、なんとか皆で舞台に立つんだって、そのモチベーションもありますね。だから「目標を決めて」ということは、すごく大事なことでと学校時代に自分で感じました。

過酷な1年目を乗り越えて、2年になったら逆転するんですよ。今度は言う側となり、今までぐ〜っと耐えていたのが、2年目でやっと花開いて「なんか舞台人という、表情が豊かで個性があって」というものが必要だと思うんですけど、1年目はそれを一切消されてしまうんですね。「笑ってもいけない、目も合わせちゃいけない、喋っちゃいけない」とか色々ありますがその1年間ぐ〜っと我慢していたおかげで、今度2年生になると皆な一気に表情豊かに、自分の個性を主張するようになります。

楽しい天国の2年生を過ごした後、今度は学校卒業と同時に宝塚への入団が待ってるんです。今度、歌劇団に入団するともっと上級生がたくさんいるので、また地獄に逆戻りするんです。

初舞台で必ずやる演目が、ラインダンスですけどご存じでしょうか？ ちょっとやってみます。こうやって40人全員で足を上げるラインダンスっていうロケットが最初の初舞台生のお仕事なんですけれども、ものの3分くらいです。でも、このために1ヶ月近く毎日7時間から8時間ひたすらこの3分間の稽古を毎日毎日特訓してやるんですね。この時に学校生から舞台人になり、お客様からお金をいただいて社会人になることの厳しさを一緒に教え込まれます。

宝塚の舞台は、トップ1人だけが頑張っても絶対良くはなりません。トップを引き立てるために皆がそこに向かってエネルギーを注ぐから一つの大きな力が生まれて、お客様に感動を与えることが出来ます。とにかく一人一人が出来る限り100%頑張るとそれが大きなパワーとなり一つの大きいものが生まれると演出家の先生にも言われましたし、上級生にも言われました。確かに腐るときもあります、私だけ台詞がないとか、私



だけあの場面に入れなかったとか。でもそういう時も、周りの上級生がいち早く気付いて、「なんで腐ってんの」とか、いろんな言葉をかけてもらえたことがすごくありがたかった。そのように皆で助け合いながら、切磋琢磨で伸びていく。誰かを引き摺り下ろして足引っ張って、とかではなく皆で頑張っていくそのパワーが宝塚の良さと思うんですね。これも音楽学校の1年目で同期として、仲間として助け合いが大事だっていうのを植えつけられている為に、出来ることなのかなあって思ったりするんです。

お稽古場の壁の隅っこの方に貼ってある「ブスの25ヶ条」というものがあるんですが、これは特に宝塚歌劇団の教えと言うわけではなく、実は私の同期が「ブスの25ヶ条」という本を出してるんです。それをまた自分でも読み返した時に、本当に極々当たり前のことが書かれています。例えば1番に「笑顔がない」。2番に「お礼を言わない」。3番に「美味しいと言わない」。4番に「目が輝いてない」とあるんですけれども。例えばこの1番の「笑顔がない」は、絶対良くないことですが笑顔は印象も良いですし、一緒にいる人を元気にさせます。表情が無表情だったりずっと不機嫌な顔してる人には、良い人たちは集まってこないと思います。1番の「笑顔がない」のはすごく忘れがちだけど大事なことなのかな、と。25番までありますが、自分が全部実践出来ているかと言うのももちろん出来てないです。ただ、出来てないけれどたまに見返して、ハッと気付く自分でありたいと思っています。例えば、私が最近見た時にハッと思ったのが11番の「自分が最も正しいと信じ込んでいる」ということと、20番の「人のアドバイスや忠告を受け入れない」ということです。自分はそんなつもりはなかったんですけど、やっぱり自分の価値観が正しいと自分でも思いがちになっているな、と反省したんです。もちろん自分の価値観で判断しますが、人に言われたことをちゃんと聞く耳は持たなければいけないな、と。何か言われて何も聞かないっていうのはやめて、とりあえず聞こう。聞いた上で自分で判断しようと思うようにしています。思い返していくと、自分でもハッと気付かされることがたくさんあります。これは私もバイブルにして、たまに見返して、「あ、こういうところが最近欠けてたな」と気づくんです。もし良かったら参考にさせていただけたらな、と思います。

私が常に思っているのが、「凛とした人でありたい」ということです。「凛とした人」とはどんな人だろうと思った時に「心の美しい人だ」と思います。さっきの「ブスの25ヶ条」もそうなんですが、あれって別に見た目のことを言ってるわけではないんですよ。やっぱり心の綺麗さというか、心の持ち方でブスにもなるし美しくもなれると思うのです。「凛とした人」「心の美しい人」でありたい。なかなか難しいですよ。さっき言った「25ヶ条」も全然まだ自分でも出来てないところはたくさんあるけれどそういう人でありたいと思います。

音楽学校で挨拶とか、笑顔とか、言われているので、例えばエレベーターに乗っても、自分が先に乗っていたら「何階ですか?」とか、先に降りるときは「お先に失礼します」とか、ついつい言ってしまいます。その一言があるかないかで、一緒にいた人の気持ちというか空気って全然変わるじゃないですか。その一言がなく、ブスっと出ていかれたら別に何も感じないけれど、気持ちよく「お先に失礼します」とか「何階ですか?」と言われると、やっぱり気持ちが良いものです。小さいことですがとにかく「笑顔で挨拶をする」とか、自分で出来ることからやるように心がけています。それは多分、宝塚を卒業した方の経験として今でも実践されていると思いますし、これは別にタカラジェンヌだからじゃなくて、どの社会でも同じことだと思うので、是非、明日からは笑顔で皆さんご挨拶をしていただければいいなと思います。

宝塚っていう特殊な世界ですが、同じことなんじゃないかなって今、自分が退団したから思うことかもしれません。自分もそれを日々忘れずに、何か伝えられる機会がありましたら色々なお話も出来たらなと思います。これで私の宝塚の経験と、これから自分も目指す「凛とした人」っていう思いをお伝えしたところで講演の方を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。



講演終了後にジャズやポップスを歌っていただき、出席者は大変魅了されていました。特に今回は女性の出席者が多く、とても感激していました。

(総務委員会)





## 平成24年度「技術研究会」発表会開催

日時：平成25年2月20日（水）  
14:00～17:15  
場所：ソフィアホール  
（大分第2ソフィアプラザビル）  
参加者：74名（18団体）

技術委員会が主催する平成24年度「技術研究会」発表会が開催されました。  
この研究会は、毎年会員各社の中堅および若手の技術者が集まってソフトウェアの技術研究を共同で行うもので、今回で16回目となります。

今年度は「Hadoop」、「BYOD」、「組込みシステム」の3つの研究部会を設けて募集を行い、大分大学大学院生を含めた14名の参加者により、部会ごとに具体的なテーマを決めて実際の研究活動を行ってまいりました。

発表会では、森会長からの開会挨拶の後、昨年に引き続き産学連携をより深める取り組みとして、大分大学の「研究シーズ」を紹介していただきました。

今回の大学研究シーズ発表は以下のとおりでした。



古家 賢一 氏

### 「マイクロホンアレーを用いた音メディア処理とその応用」

大分大学工学部 知能情報システム工学科 教授 古家 賢一 氏

周囲の雑音を抑圧して必要な音のみを抽出する技術として、複数のマイクロホンの出力信号をコンピュータで処理するマイクロホンアレー技術を解説いただき、応用研究のいくつかを紹介していただきました。



星芝 貴行 氏、長山 朗人 氏

### 「タブレット端末上での邦楽譜・五線譜相互変換アプリケーションの開発」

日本文理大学大学院 工学研究科環境情報学専攻 星芝研究室 長山 朗人 氏

研究開発された琉球古典音楽の楽譜である「工工四（くんくんしー）」と、五線譜の相互変換システムの解説を、デモ中心に分かり易くご説明いただきました。

続いて各部会のメンバーより、昨年7月から行ってきた研究の成果発表が行われました。今回の各部会の研究テーマと発表内容は以下のとおりでした。

#### ①Hadoop部会

テーマ：「実業務へのHadoopの適用  
～気象データを用いた分散処理の実装～」

内容：Hadoop技術の利用用途の1つであるアクセス解析に着目し、九州全域の気象データをもとにアプリを作成。Hadoop技術が十分に業務システムでも利用価値があることを紹介。

#### ②BYOD部会

テーマ：「BYODって何？～BYODにおける課題とその解決法～」

内容：BYODの普及状況から導入のメリットやデメリットを考察。導入事例を交えながら、リスクを排除することで導入の可能性があることを紹介。

#### ③組込みシステム部会

テーマ：「組込みシステムの基本的な構造と活用方法の研究  
～Arduinoを活用したRCカーの作成～」

内容：Arduinoを活用し、スマートフォンからRCカーを制御するアプリを作成。作成経験を踏まえ、組込みシステムについて今後の課題を紹介。

各部会とも、本務の傍ら十分な時間が取れない中での研究活動であったと思われませんが、いずれも、新しい技術動向に対して精力的に研究し、実業務への影響や新たな事業展開の可能性を視野に入れた前向きな取り組み姿勢がうかがわれました。

最後に、清水委員長より講評とお礼を申し上げ、各部会の代表者に対して研究活動の労をねぎらいました。

なお、各部会の発表資料は当協会のホームページにて公開しております。

（技術委員会）



Hadoop部会



BYOD部会



組込みシステム部会

# 第62回 別府大分毎日マラソン 社会貢献活動参加



平成25年2月3日(日)、昨年より当協会の社会貢献活動として始めた別府大分毎日マラソンの給水ボランティア活動が行われました。協会からは昨年を上回る135名が参加し、13.5km、23.5km、38.5kmの3箇所の給水場所を担当し、約2,650人の選手に対応しました。今年は参加選手も昨年より1.5倍に増え、話題の川内選手、中本選手がレース終盤に激しいデットヒートを繰り広げ、最後は川内選手が大会新記録で優勝し、大変盛り上がった大会でした。

当日は天候に恵まれ、2回目の参加ということもあって手際よく準備を終え、選手を待ちました。テレビ中継で見ると違い、先頭集団は瞬きする間に通り過ぎ、そのスピードに驚かされます。その後しばらくすると怒涛のごとく選手が押し寄せました。参加者は、給水活動の合間に選手の懸命な姿に拍手や声援で健闘をたたえ、一緒に大会を盛り上げていました。終わってみると回りは水浸しで、空のコップが散乱し給水場に押し寄せた選手のすごさを物語っていましたが、無事に給水活動を実施することが出来ました。

一緒に参加した方も大変貴重な体験が出来たと感動していました。また、充実した時間を過ごすことができました。

来年も是非参加したいと思います。

(総務委員会)

# 平成24年度 第2回視察研修旅行

平成24年度第2回視察研修旅行が平成25年1月18日(金)に参加者14社22名で実施されました。

今回は株式会社ブリヂストン久留米工場(福岡県久留米市)、西日本新聞社製作センター(福岡市博多区)視察と大宰府天満宮(福岡県太宰府市)参拝の予定でした。

しかし、当日は積雪のためブリヂストン久留米工場視察は取り止めとなり、西日本新聞社製作センターを視察し大宰府天満宮を参拝しました。

参加者の皆様お疲れ様でした。

(企画委員会)



西日本新聞社 製作センターにて



西日本新聞社 製作センタービル



昔の高速カラー輪転印刷機

## フレッシュさん紹介 よろしくお願いたします。

株式会社オーイーシー  
ライフソリューション部  
築城 早樹子

趣味：旅行  
好きな言葉：一期一会



株式会社アトムス  
オフィスソリューション営業部  
工藤 翔平

趣味：バンド活動・韓国語会話  
好きな言葉：  
見えない不安に怯えるよりも、  
見えない希望を追いかけろ



株式会社オーガス  
パッケージビジネス部  
溝口 雅人

趣味：音楽鑑賞  
好きな言葉：なるようになる



昨年4月に入社し、ちょうど1年が経ちました。今はプログラマーとして、日々業務に励んでいます。研修を終え、配属されたばかりの頃は、わからない事、できない事ばかりで、毎日落ち込んでいた事が思い出されます。

しかし、今思えばひとつの開発を終えるごとに少しずつ知識が蓄積され、悪戦苦闘した分だけその経験が次の仕事に大きく生きていく事も体感できました。

今でも相変わらず苦勞する事は多々ありますが、上司・先輩方の周囲の温かいご指導によりこれまで同様乗り越えていけると思っています。今後も一社会人として、もっとパワーアップできる様、日々努力していきます。

昨年4月に入社し、もう間もなく1年が経ちます。営業という全く経験の無い世界に飛び込みましたが、お客様や周りの先輩方に支えられ、助けられながら、日々仕事に取り組んでいます。

主な取扱品目はオフィス家具やOA機器、システム機器中心ですが、ただ売だけでなく、その商品がお客様の仕事において生産性向上の手助けとなるよう、どうしたらお客様に喜んでいただけるか、日々試行錯誤しながら仕事をしています。また、老人福祉施設等新規分野にも挑戦し、お客様と共に成長できる仕事ができたらと思っています。

まだまだ経験も少なく手探りの状況ですが、これから多くのお客様から信頼され、「工藤さんに任せておけば大丈夫」と言っていただけるよう、努力し続けようと思っています。

平成23年4月に入社し、今年で3年目になりました。

仕事はSEとして、主にWEBシステムの開発業務を担当しています。IT技術は更新サイクルが速いので、何事にも興味を持ち、分からないことでもまずは取り入れてやってみるよう心掛けています。

入社当初は新しい環境の中で、なかなかうまくいかないことも多く、悩んだこともありました。しかし、上司や先輩方の丁寧なご指導のおかげで今では仕事にやりがいを感じています。

まだまだ未熟ですが、周りの方への感謝の気持ちを忘れず、コミュニケーション能力の向上や更なるIT技術の習得など、SEとして必要な能力を毎日の業務を通して磨いていきたいです。